

2015年3月期 第3四半期(2014年4月～12月) 東京エレクトロン 決算説明会

内容:

➤ 第3四半期連結決算の概要

取締役執行役員 原田 芳輝

➤ 事業環境と利益成長の追求

代表取締役会長兼社長、CEO 東 哲郎

2015年1月30日



TOKYO ELECTRON

第3四半期連結決算の概要

取締役執行役員 原田 芳輝

2015年1月30日



TOKYO ELECTRON

業績サマリー

(億円)

	2015年3月期			1Q-3Q		
	1Q	2Q	3Q	FY15	FY14	前年同期比
売上高	1,513	1,429	1,370	4,312	3,929	+10%
売上総利益 下段: 売上総利益率	553 36.6%	520 36.4%	576 42.1%	1,650 38.3%	1,303 33.2%	+27%
販管費	383	390	355	1,128	1,231	-8%
営業利益 下段: 営業利益率	170 11.3%	130 9.1%	220 16.1%	521 12.1%	72 1.8%	+620%
税前利益	150	140	247	538	-375	+913億円
当期純利益	118	81	174	374	-356	+730億円
研究開発費	167	181	168	517	573	-10%
設備投資額	37	35	26	99	82	+21%
減価償却実施額	47	50	54	151	186	-19%

売上総利益率、営業利益率がともに高水準

1. 当社の主力製品である半導体製造装置及びFPD製造装置の輸出売上は、原則円建てで行われます。一部にドル建ての決済もありますが、受注時に個別に先物為替予約を付し、為替変動リスクをヘッジしています。
2. 利益率および増減率は、1円単位の金額をもとに計算しています。
3. 当期(2015年3月期)からEC/CN事業は連結対象外となりました。

部門別売上高

(億円)

	2015年3月期						1Q-3Q				
	1Q		2Q		3Q		FY15		FY14		前年 同期比
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	
SPE	1,361	90%	1,365	95%	1,319	96%	4,046	94%	2,970	76%	+36%
FPD	139	9%	50	4%	37	3%	227	5%	182	5%	+25%
PVE	11	1%	12	1%	11	1%	34	1%	44	1%	-23%
EC/CN									728	18%	---
その他	1	0%	1	0%	1	0%	4	0%	3	0%	+26%
合計	1,513	100%	1,429	100%	1,370	100%	4,312	100%	3,929	100%	+10%

■ SPE
(半導体製造装置)

DRAM向け売上が引き続き堅調。

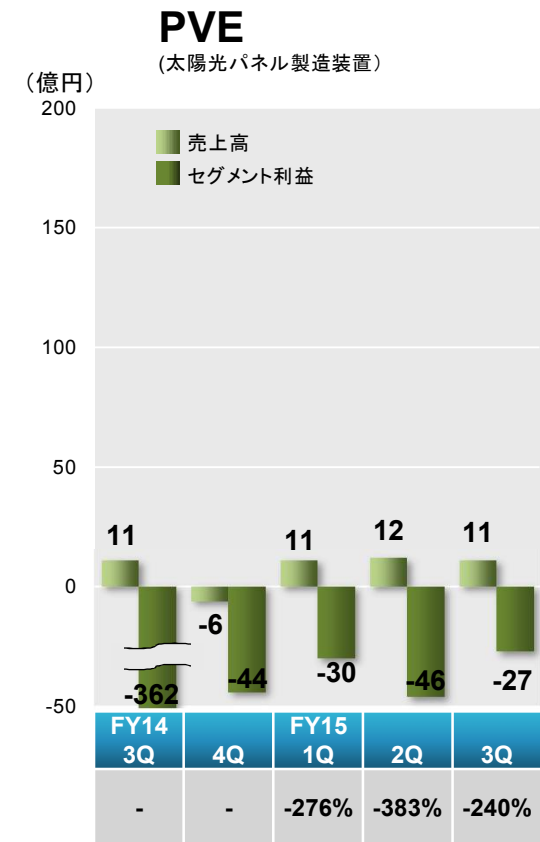
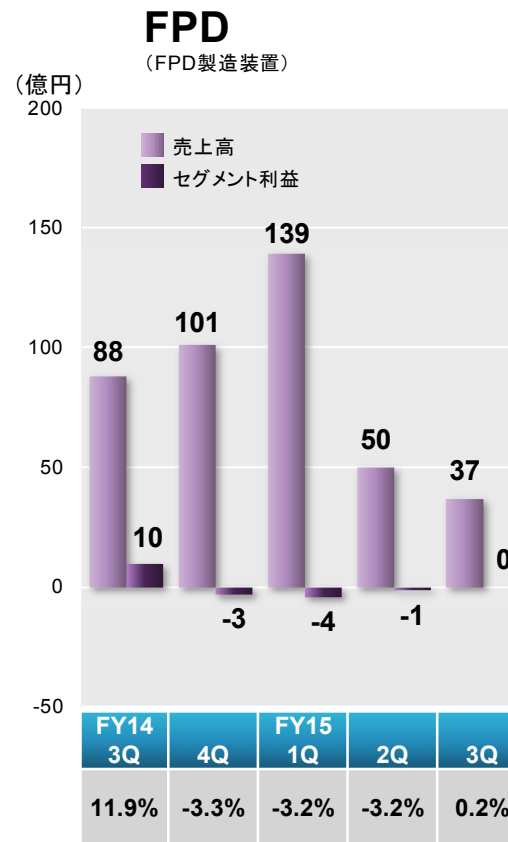
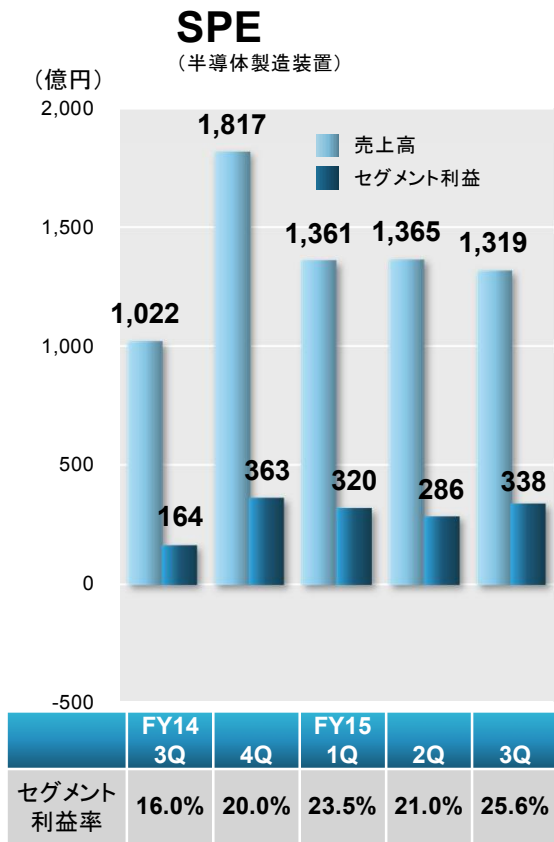
■ FPD
(FPD製造装置)

大型パネル用製造装置の売上が中心。

■ PVE
(太陽光パネル製造装置)

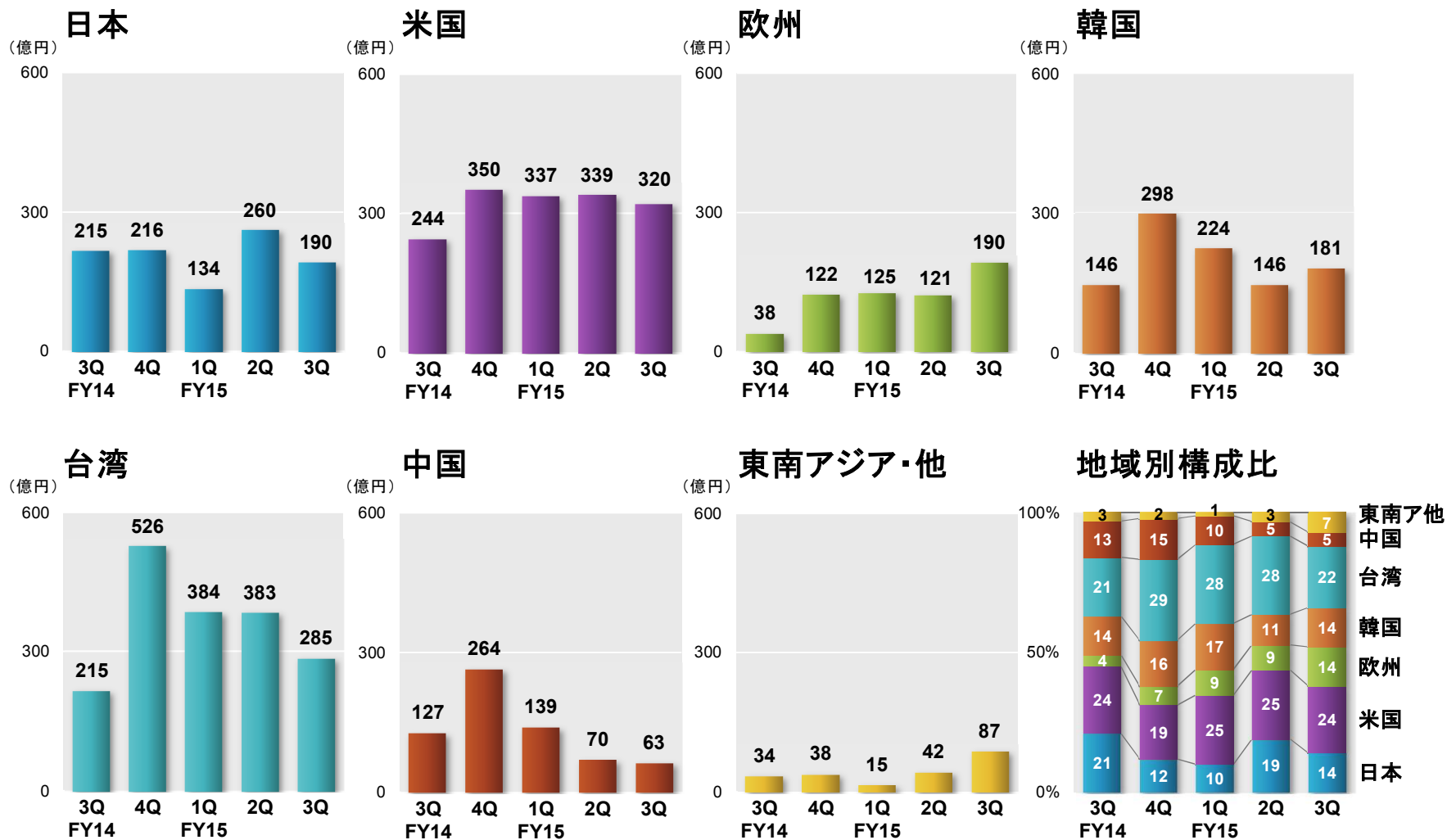
2014年3月末で製造開発および販売活動を終了。納入装置のサポートのみ継続。

セグメント情報



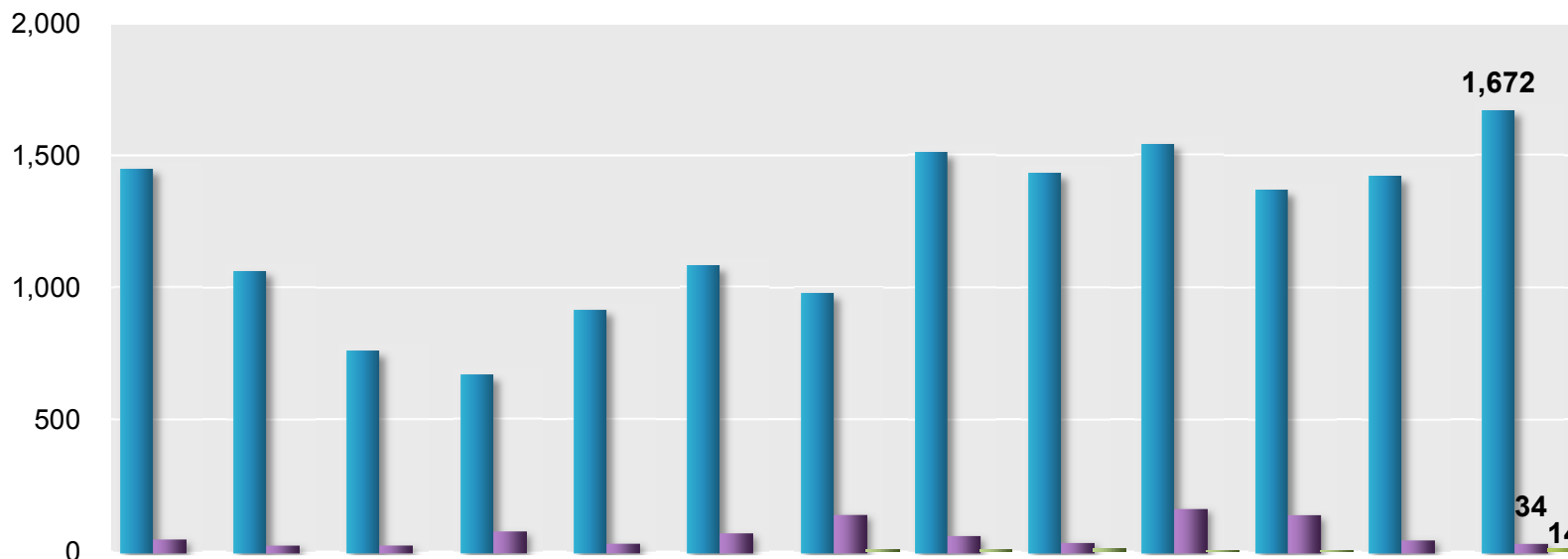
1. 従来のFPD/PVEセグメントを、FY14/1QよりFPDとPVEに分けて開示しています。
2. セグメント利益は、税前利益です。
3. 上記報告セグメントに配分していない全社費用があります。
4. PVEセグメントについては、FY14/4Qに工事進行基準売上高の進捗度を再精査しました。

SPE部門地域別売上高



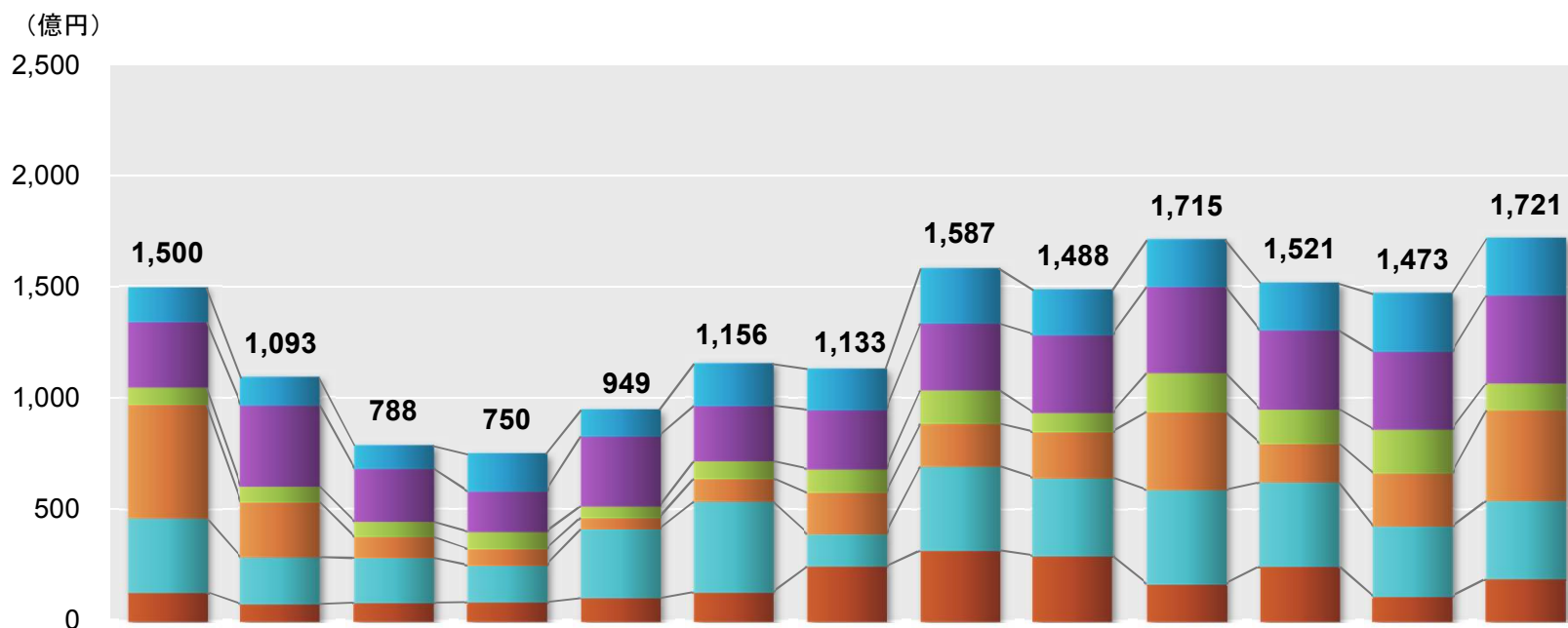
受注額・受注残高

(億円)



FY12/4Q以前のPVEの受注額および受注残高はFPDとの合計額で表示しています。

地域別受注額：SPE+FPD+PVE

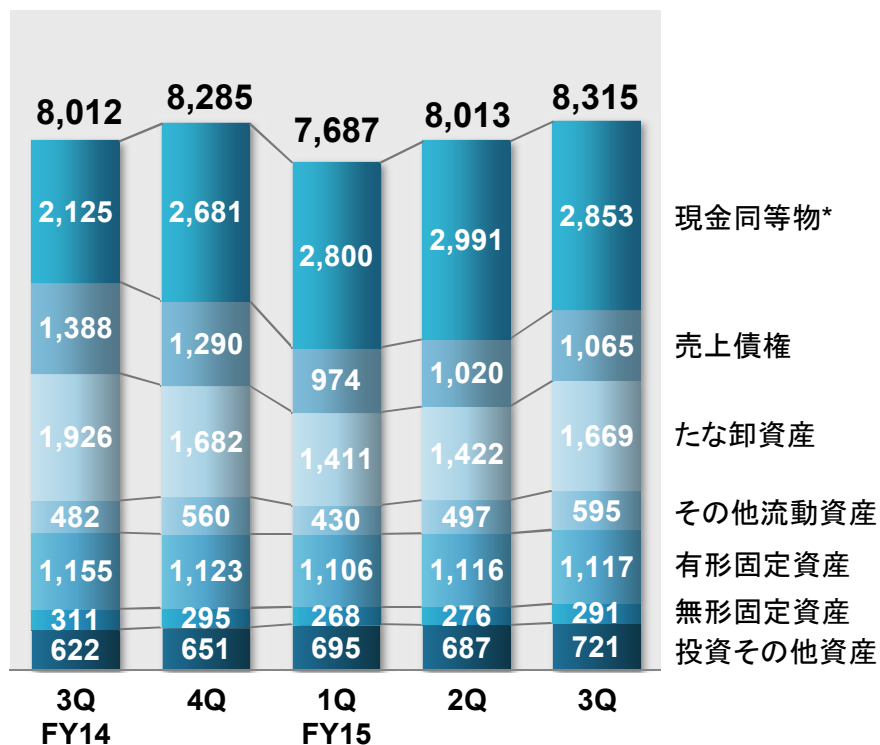


	FY12 3Q	4Q	FY13 1Q	2Q	3Q	4Q	FY14 1Q	2Q	3Q	4Q	FY15 1Q	2Q	3Q
■ 国内	149	117	100	163	115	187	183	247	196	209	212	259	252
■ 米国	297	368	240	184	317	249	264	298	353	389	352	348	396
■ 欧州	76	70	68	77	50	77	109	153	85	175	155	199	120
■ 韓国	511	251	97	73	52	105	182	191	206	350	176	241	410
■ 台湾	335	210	200	167	313	410	149	378	352	423	377	313	351
■ 中国・東南ア他	129	74	81	83	100	127	244	317	293	167	246	110	190

貸借対照表

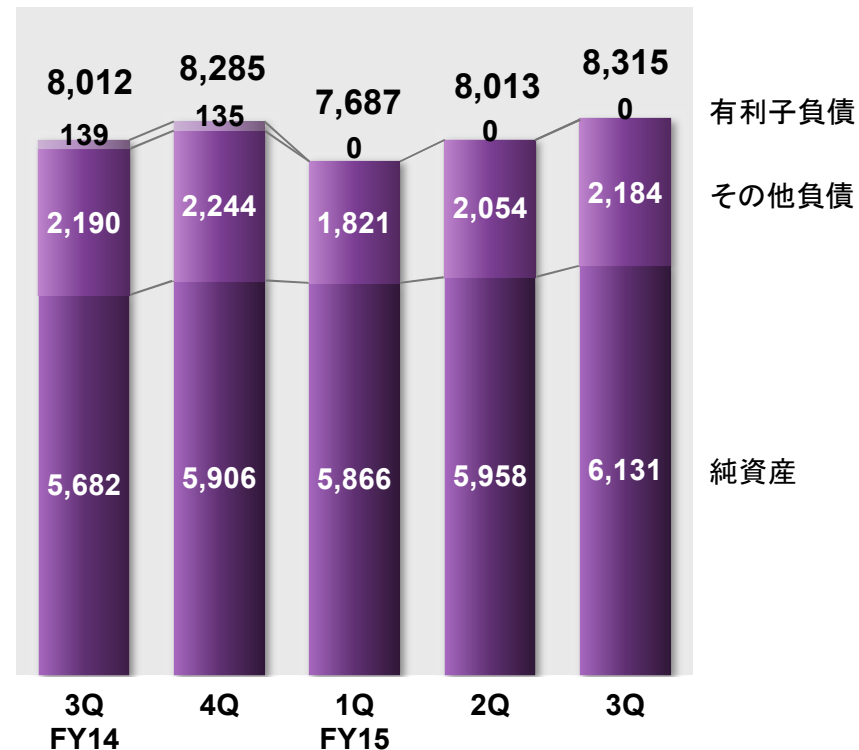
資産

(億円)



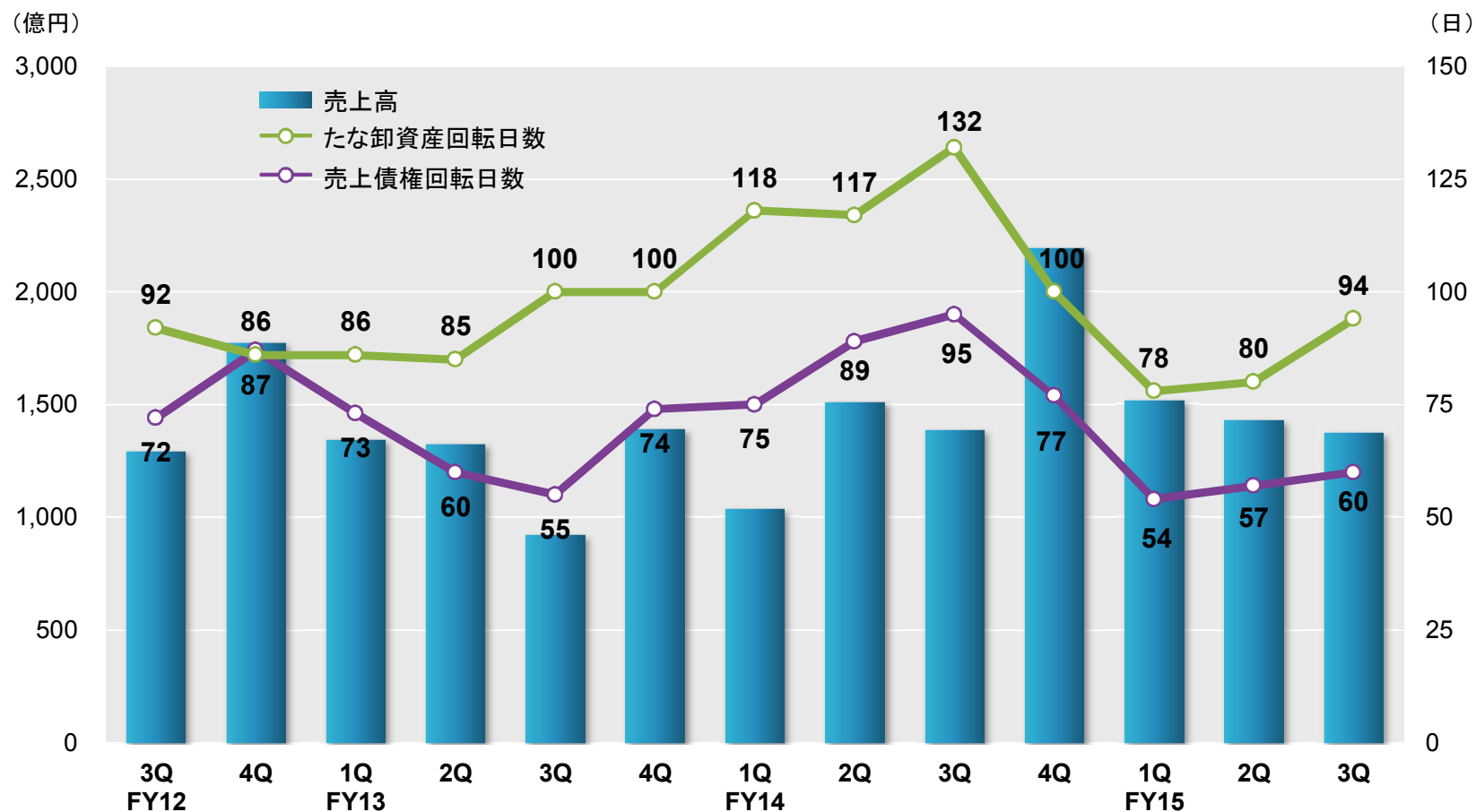
負債・純資産

(億円)



1. 現金同等物*: 現預金+短期投資等(貸借対照表上の表示は有価証券)
2. 当期(2015年3月期)からEC/CN事業は連結対象外となりました。

たな卸資産・売上債権の回転日数



回転日数 = 売上債権もしくはたな卸資産 ÷ 各四半期末までの12ヶ月間売上高 × 365

キャッシュ・フロー

	2015年3月期 1Q-3Q	2014年3月期 1Q-3Q	(億円)
営業キャッシュ・フロー	400	△121	
税引前利益	538	△375	
減価償却費	151	186	
減損損失	-	465	
売上債権の減少(△増加)	35	△347	
たな卸資産の減少(△増加)	△159	△533	
仕入債務の増加(△減少)	△22	125	
法人税等の支払額または還付額	△218	△5	
その他	75	363	
投資キャッシュ・フロー	1,267	167	
設備投資	△91	△69	
満期3ヵ月超の預金等の増減額	1,333	254	
その他	25	△16	
財務キャッシュ・フロー	△119	2	
配当金支払い	△116	△91	
その他	△2	93	
現金及び現金同等物の期末残高	2,553	831	
満期3ヵ月超の定期預金・短期投資の期末残高	300	1,293	
現金及び現金同等物＋満期3ヵ月超の定期預金・短期投資等の期末残高	2,853	2,125	



事業環境と利益成長の追求

代表取締役会長兼社長、CEO 東 哲郎

2015年1月30日

事業環境



TOKYO ELECTRON

事業環境

▶ 半導体設備投資

CY2015の半導体前工程(WFE)の設備投資額は、前年比10%前後の増加を見込む。好調なモバイル機器および企業向けサーバ市場を背景に、半導体需要は依然堅調であり、メモリ向けを中心に設備投資が拡大すると予想。

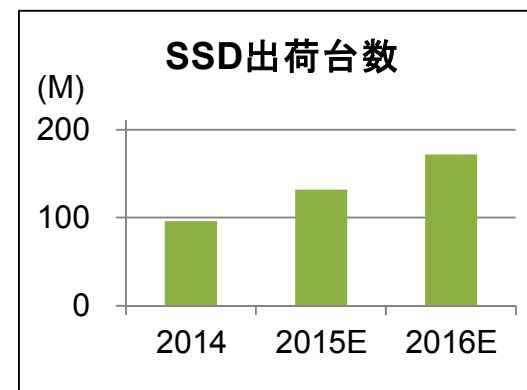
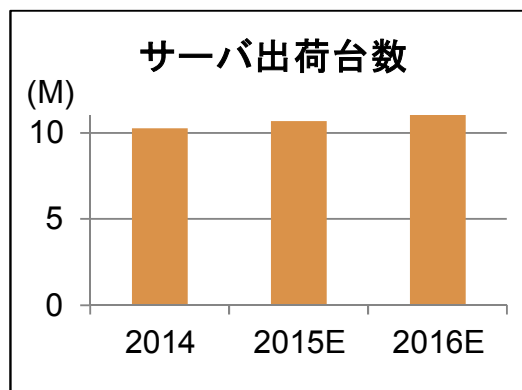
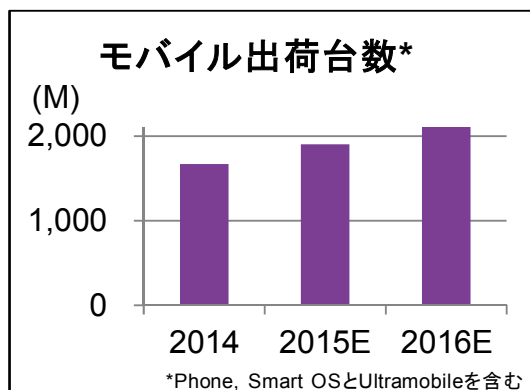
- DRAM/NAND: 活発な増産投資が継続
- ファウンドリ: 1X世代先端ロジック向け投資開始
- ロジック: PC/サーバ市場の堅調な推移により、高位安定的な投資継続

▶ FPD設備投資

CY2015の液晶パネル用製造装置の需要は、大型パネル向け設備投資が減少する一方、モバイル用途の中小型パネル向けの投資が増加し、市場全体では引き続き堅調な推移が見込まれる。有機ELテレビ市場の立ち上がりは2016年以降。

(2015年1月時点での見方)

2015年 半導体設備投資の牽引役



ガートナーのリサーチを基に当社にてグラフを作成 対象:世界市場, 出荷台数=Ex Factory Production Units K
Source: Gartner Semiconductor Forecast Database, Worldwide, 4Q14 Update, 19 December 2014

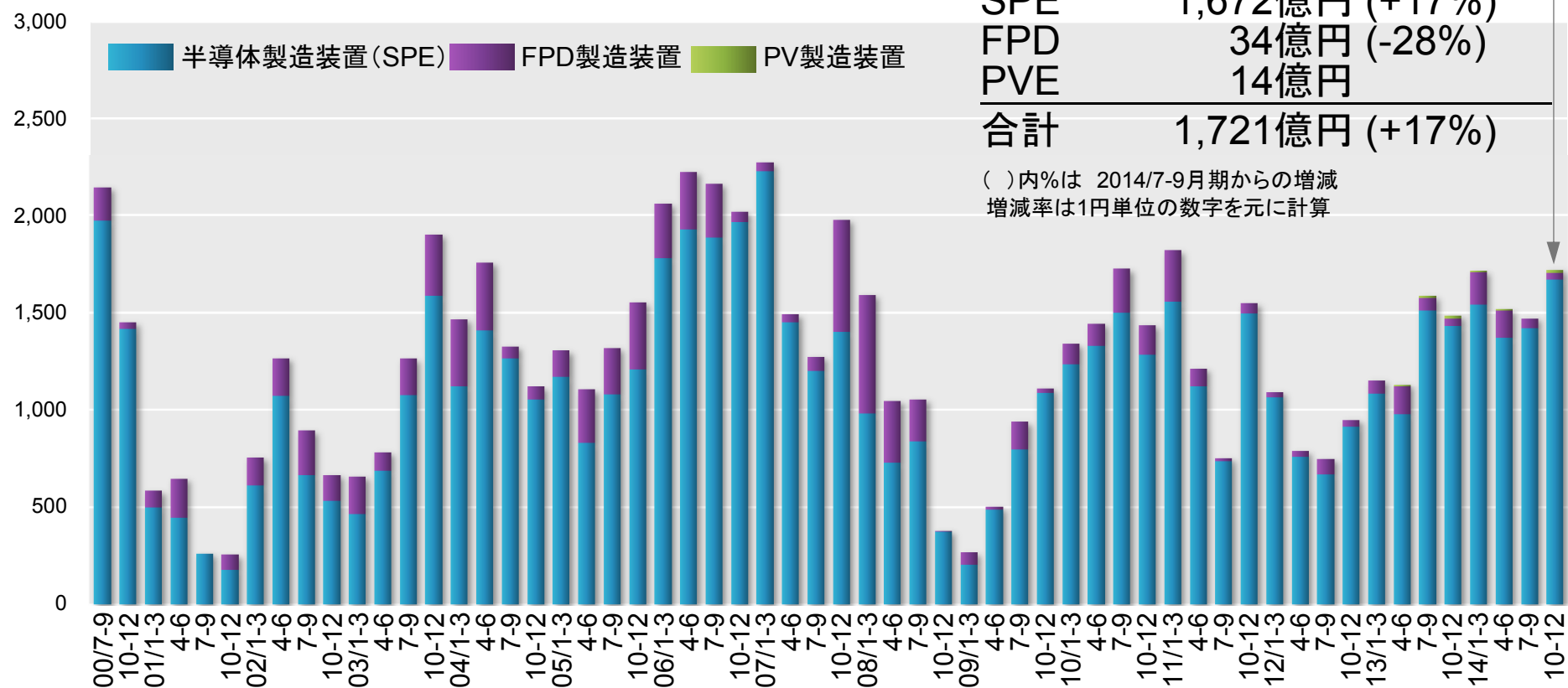
- モバイルDRAMのビット成長率 50-55%: モバイル出荷台数・搭載容量の増加
- サーバ向けDRAM需要が拡大
- NANDのビット成長率 35-40%: PC/サーバ向けSSDが大きく寄与
- 高性能化(高速化・低消費電力化)の追求: 1X世代先端ロジックに移行

好調なモバイル、サーバ需要が設備投資を牽引

The Gartner Report described herein, (the "Gartner Report") represents data, research opinion or viewpoints published, as part of a syndicated subscription service, by Gartner, Inc. ("Gartner"), and are not representations of fact. Each Gartner Report speaks as of its original publication date (and not as of the date of this enterprise report) and the opinions expressed in the Gartner Report are subject to change without notice.

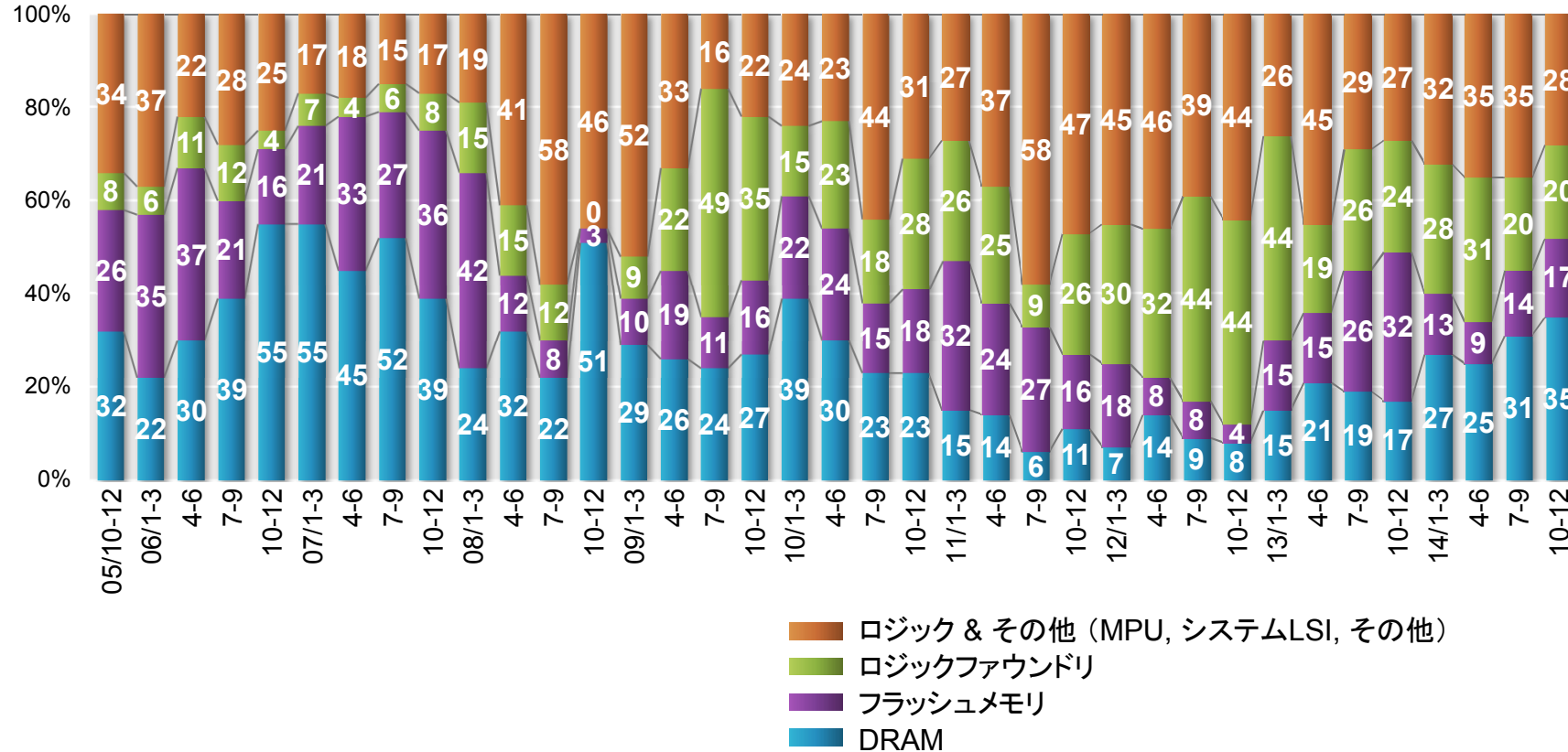
四半期 受注額

(億円)



2012/1-3月期以前のPV製造装置の受注額は
FPD製造装置の値に含まれています。

アプリケーション別SPE受注額



グラフは装置本体受注における構成比を示しています。

2015年3月期 業績予想



TOKYO ELECTRON

Corp IR/January 30, 2015

2015年3月期 業績予想 (2014/10/29発表から変更なし)

▶ 収益性が向上、下期は上期比較で40%の増益を見込む

(億円)

	FY2014	FY2015				通期 対前年 増減
		上期	下期	通期		
		実績	予想 (参考情報)	予想 (参考情報)		
売上高	6,121	2,942	3,040	5,982	-2%	
SPE	4,788	2,726	2,850	5,577	+16%	
FPD	283	190	130	320	+13%	
PVE	38	23	60	83	-	
EC/CN*	1,007					
その他	4	2	-	2	-	
営業利益	322	301	430	731	+409	
下段: 営業利益率	5.3%	10.2%	14.2%	12.2%	+6.9pts	
税前利益	-117	291	-	-	-	
当期純利益	-194	200	-	-	-	

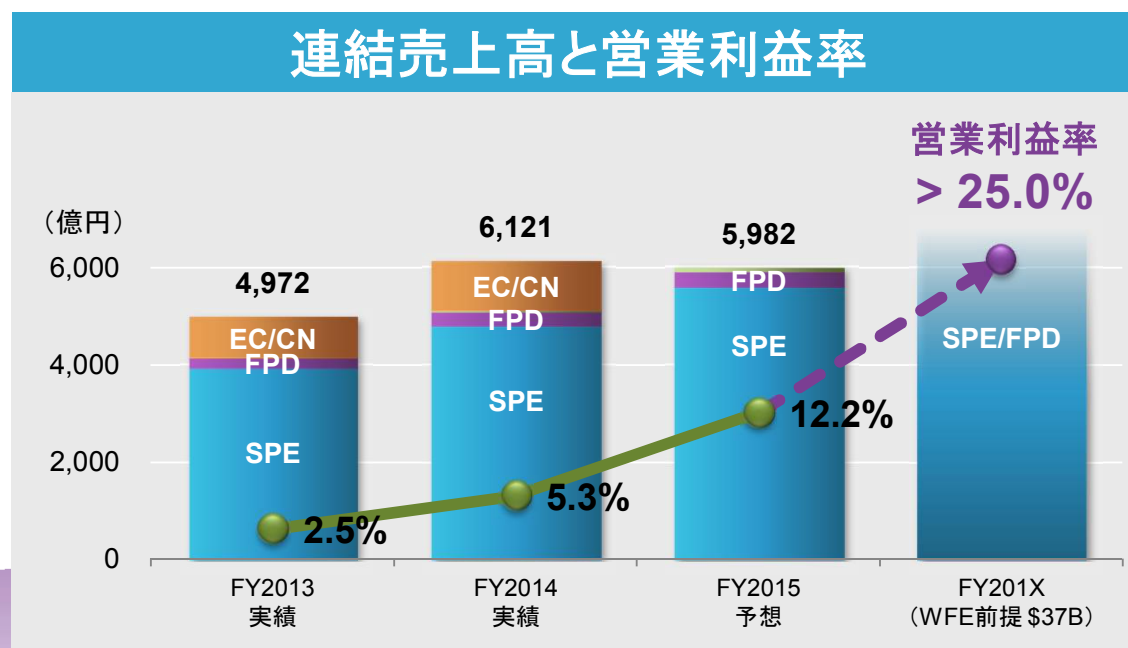
アプライド マテリアルズとの経営統合効力発生日が未定であるため、下期および通期の業績予想は参考情報です。

*EC/CN事業を行っている東京エレクトロン デバイスは、FY2015より当社の連結子会社から持分法適用会社となりました。

SPE: 半導体製造装置 FPD: フラットパネルディスプレイ製造装置 PVE: 太陽光パネル製造装置 EC/CN: 電子部品/コンピュータ・ネットワーク

技術の変革点で利益成長を追求

- ▶ デバイスの3次元化や新材料の採用が成長機会を創出、革新的な製品投入で収益性を高める
- ▶ 経営資源の適正化により、更なる利益率向上に取り組む



中期的に営業利益率25%以上を目指す

まとめ

1. CY2015 WFEは、前年比10%前後の増加を見込む。好調なモバイル、サーバ需要が、メモリ向けを中心に設備投資を牽引。
2. 新技術に対応する革新的な製品投入と一層の経営効率化により、中期的に営業利益率25%以上を目指す。
3. アプライド マテリアルズとの統合は、引き続き各国当局への対応において適切なアプローチをとり、早期完了を目指す。

▶ 将来見通しについて

本資料に記述されている当社の業績予想、将来予測などは、当社が作成時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、経済情勢、半導体/FPD/PV市況、販売競争の激化、急速な技術革新への当社の対応力、安全・品質管理、知的財産権に関するリスクなど、様々な外部要因・内部要因の変化により、実際の業績、成果はこれら見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。

▶ 数字の処理について

記載された金額は単位未満を切り捨て処理、比率は1円単位の金額で計算した結果を四捨五入処理しているため、内訳の計が合計と一致しない場合があります。

▶ 為替リスクについて

当社の主力製品である半導体製造装置及びFPD/PV製造装置の輸出売上は、原則円建てで行われます。一部にドル建ての決済もありますが、受注時に個別に先物為替予約を付し、為替変動リスクをヘッジしています。従って、為替レート変動による収益への影響は極めて軽微です。

FPD/PV：フラットパネルディスプレイ及び太陽光パネル

